

神戸市会11月議会

12月7日に開かれた本会議で向井道尋議員(須磨区選出)、藤本浩二議員(西区選出)が一般質問に立ち、犬猫の飼い主マナー、生活保護受給者などへの就労支援、学校における実践型交通安全教室、ふるさと納税、高齢者の虐待対策、インバウンド観光の振興などの課題についてそれぞれ質問しました。

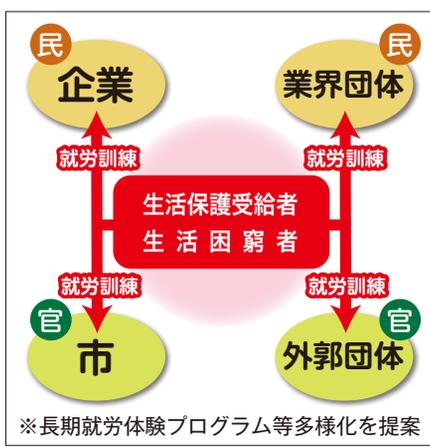
生活困窮者支援の充実を求め論戦を展開 ふるさと納税を活用した新たなメニューにも言及

就労先の拡大を図れ



有機栽培農園での就労体験の様子

先の拡大に努力をしていきたい」と答弁しました。
さらに向井議員は「対象者の状況に応じて長期の就労体験プログラムなど支援メニューの多様化を図るべきではないか」と求めたところ、久元市長は、「今後更なる多様な就労支援の機会の提供ができるよう最大限の努力をしていきたい」と前向きな答弁をしました。



ふるさと納税の魅力

神戸市のふるさと納税について向井議員は、「ふるさとKOBEBE寄附金」として環境保全などの様々な事



ふるさと納税を活用した環境事業

業に活用しているが使途が明確にされていない。また、選択する対象メニューが少なく寄附をしやすい制度ではないと指摘したうえで、「寄附制度を『ふるさとKOBEBE寄附金』に集約し、例えば今後の国際フルトコンクールや動物愛護関連への支援など使途を明確にし、メニューも拡充するべき」と訴えました。久元市長は、「『ふるさとKOBEBE寄附金』と『寄附』の二つの窓口を一本化し、メニューも多様化して拡大し、寄附を行ってもらえる魅力あるものに積極的に取り組む」と約束しました。

高齢者の虐待対策を

藤本議員は、「介護施設の従事者による虐待問題が深刻化している

未来を創造する人材活用を 久元神戸市長へ予算要望

平成28年度予算編成を前にして、久元市長に対して公明党議員団は予算要望書を手渡しました。冒頭、神戸市の未来を創造するために、市職員だけではなく適材適所で外部の人材も広く用いて市政運営を目指すように求め、主要分野における基本方針を述べました。その後291項目ある具体的な要望から、①今秋からスタート予定だった中学校給食について、異物の混入が相次ぎ、本格実施が延期された問題に触れ、市民に安全性に関する理解を促すため情報公開を要請②若者と中小企業間の雇用のミスマッチの解消③障がい者や生活困窮者の雇用の場の確保④防犯カメラの未設置校の解消⑤保育料や私立幼稚園就園奨励助成金の対象となる年齢

を18歳まで引き上げなど18項目について市長と意見交換しました。

久元市長はそれぞれの課題について現状と今後の考えなどを答えた後、「公明党議員団の要望は市民一人一人の声を丁寧に汲み上げ反映されているので大変に参考になる。本日のご意見を来年度予算に組み込めるよう各局と検討したい」と約束しました。



なかで、本市としてどのようなように高齢者虐待防止に関する対策を行うのか」と質問しました。玉田副市長は、「虐待は人権侵害であり厳正に取り組みなければならない」と答えたうえで、「市独自の防止の取り組みは介護サービス事業者の運営基準条例に基づいた高齢者虐待防止研修の実施報告を求めている。また、専任の専門職を配置し厳正に対応している」と答弁しました。また、藤本議員は、「高齢者虐待

は介護現場における人手不足や過重労働が要因として考えられるため、介護人材の確保については処遇改善などを図るべきではないか」と質問しました。玉田副市長は、「認定制度によつて処遇改善を図り、離職防止等に努めている」と答弁しました。



ワールドカップラグビーが神戸へ



昨年のワールドカップラグビー2015イングランド大会で日本代表は惜しくもベスト8は逃しました。しかし、初戦で優勝候補の南アフリカ代表を倒すなど大活躍。世界に「感動」「勇気」、また「衝撃」を与えました。

3年後の2019年ワールドカップラグビー大会はアジアで初めて日本で開催。9月から10月にかけて全国12会場で行われます。神戸市も開催都市に立候補。公

明党議員団も誘致を進め、「神戸市御崎公園球技場（ノエビスタジアム神戸、兵庫区）」が開催地に選ばれました。3年後にはワールドクラスの迫力を身近で観戦できます。

また、2021年にはワールドマスタースゲームが関西で開催されることも決定しており、世界一流のアスリートの競技が目の前で見られます。

国際会議も神戸で開催

また、本年5月、主要国首脳会議

（サミット）が日本で開催されます。昨年、公明党議員団は市と協力して神戸市へのサミット誘致を進めましたが、首脳会議は伊勢志摩で行われることになりました。

しかし、神戸では「保健大臣会合」がポートアイランドで開催されることになり、会議の成果を世界へ発信できることに。今後も神戸市にスポーツイベントや国際規模の会議を積極的に誘致し、世界に「神戸」を発信していきます。



ノエビスタジアム神戸

たかがネコ、されどネコ 動物愛護と苦情解決の条例つくる



昨年12月5日、「ねこ死んじやった」というドラマ（NHK・BSプレミアム）が放送されました。飼い猫が突然いなくなつて、ペットロス（ペットを失い悲嘆にくれること）に陥る小説家・内田百閒の実話です。

ネコは世相を語る

興味深かったのは、ドラマのなかで、全国で毎年10万頭のネコが殺処分される実態や無責任な飼い主の問題、ネコの保護活動などが紹介されていたことでした。

たかがネコのことと思われがちですが、神戸市でも婦人団体や自治会から毎年ネコに関する苦情、要望が

知恵の「わ」

たくさん寄せられます。犬は狂犬病予防法により管理され野良犬は見なくなり、野良ネコは餌やり



殺処分ゼロを目指す

をする人が増え、都市部を中心に増加の一途をたどっています。栄養状態が良いとネコは1年に4回お産をするのだからです。高齢化や単身世帯の増加でペットに癒しを求める人が増えるとともに野良ネコが増え、行く観がありません。まさにネコの問題は現代の世相の反映とも言えます。

このように街に増えるネコたちは捕獲されると動物管理センターに送られ、しばらくは保管しますが時間がたてば殺処分されます。

その数は、神戸市でも年間で約千頭（昨年度は約600頭に減少）。自治体としては全国ワーストスリーにもランクされました。

一方人間の無責任さ故に殺処分されるかわいそうなネコを減らすため、「地域ネコ」運動に取り組む市民も少なくありません。これは野良ネコを捕獲し、自費で不妊・去勢手術をして殺処分される野良ネコを減らそうとする活動です。

神戸市も不妊・去勢手術の助成を行っていますが、ネコならぬ「いたちごっこ」の観は否めません。そこで、今、私たちは獣医師会の協力を得て、ネコの行動範囲、習性などを踏まえた上で集中的、計画的に野良ネコの不妊・去勢手術を行うための事業を条例で規定しようと考えています。さらに、捕獲したネコの譲渡促進や飼い方の指導も含めた取り組みを行うおうと考えています。

かわいさ、憎さも人次第

婦人団体や自治会からのネコに関する苦情の多くは、野良ネコの糞尿による悪臭や不衛生さ、泣き声に対するものです。その対策として野良ネコを捕獲するのです。

ネコなどのペットは多くの人が癒しや生きがいを求める無視できないパートナーです。しかし、無責任な飼い方や餌やりは周囲の市民に多大な迷惑をかけ、結果としてその命を奪っています。たかがネコのことと思われがちですが、私たち人間社会の根源的な問題の反映であるが故に、「小さな声を聞く力」を標榜する公明党市議団として真剣に取り組んでいきたいと考えています。

「つなぐ、チカラ」
心がつながり団結力に、
智慧がつながり創造力に、
つなぐチカラで
ひとりひとりのくらしを
守りぬいて参ります



北川道夫
きたがわみちお
東灘区

高瀬勝也
たかせかつや
灘区

沖久正留
おきひさまさる
中央区

菅野吉記
すがのよしり
兵庫区

堂下豊史
どうしたとよし
北区

徳山敏子
とくやまとしこ
北区

軒原順子
のきはらじゅんこ
長田区

向井道尋
むかいみちひろ
須磨区

大澤和士
おおさわかずし
垂水区

壬生潤
みぶじゅん
垂水区

吉田謙治
よしたけんじ
西区

藤本浩二
ふじもとこうじ
西区